

病床整備に係る状況について

横須賀・三浦地区の基準病床数に対して既存病床数が 188 床下回る状況にあることから、横須賀・三浦地区の全病院に対して病床整備について照会を行った結果を取りまとめたので報告する。

1 令和 3 年 4 月 1 日現在、基準病床数に対して既存病床数が 188 床下回っている状況での病床の公募に関する意見

	意見等
公募の 必要あり	コロナ禍における病床確保の経緯から鑑みて、総合病院等の病床規模を拡大する為に使用するべきと考える。
	地域での救急医療を担っている病院での増床を検討するのが適切と考える。
	新型コロナウイルスに限らず、不測の事態や新興感染症へ対応できる病床確保も必須であるため、即応病床的な病床配分も含んでの検討をお願いする。
	建物の老朽化、スプリンクラーが未設置のため建て替えを予定している。その際にベッドの増床が出来ないか検討している。

	意見等
公募の 必要なし	地域的に医療スタッフの確保に苦慮しているところへ、どこかで更に 188 床の増床となれば現在稼働している医療機関のスタッフが更に薄まる状況を生み出さないか危惧する。
	従来同様、病床公募以前に非稼働病床の稼働と医療従事者確保を検討すべきと考える。
	医療従事者が不足している地域の現状を踏まえると公募には賛成できない。

2 公募を実施する場合の条件に関する意見

8 月上旬、第 5 波の最中にあり、今後も変異株の猛威の可能性があり、感染症病床の必要性がある。
パンデミックや災害有事に拠点となりうる機能等を有する病院であること。(近隣の中・小規模病院との連携の中心となり、システムの構築も含む)
令和 2 年度の横浜二次保健医療圏での公募条件にある「パンデミック発生時において、医療崩壊を防ぐため、行政の要請に応じて感染症の入院患者を受け入れる役割を担う病床について 2 に関わらず、配分するを検討します。」を当該医療圏でも適応してもらいたい。